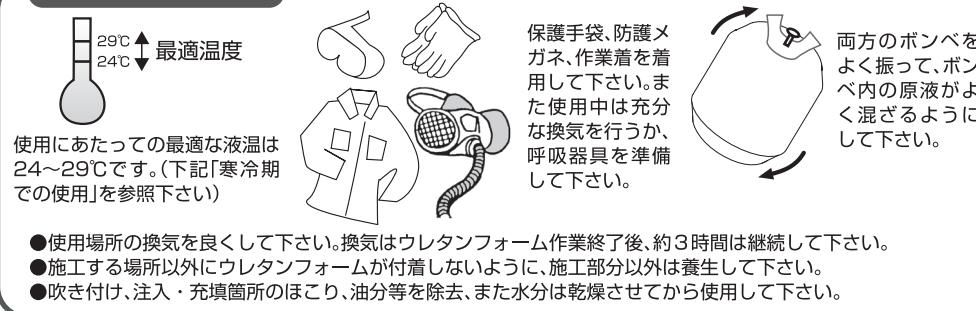
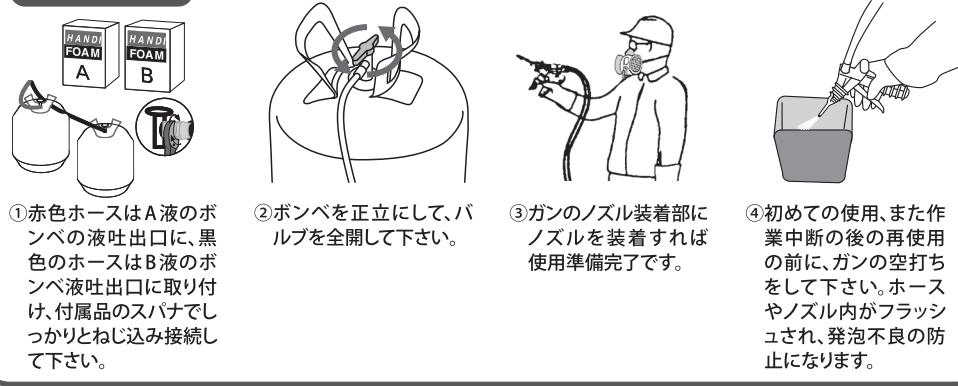


2液性発泡硬質ウレタンフォーム・ポンベタイプ商品の使用方法と注意事項

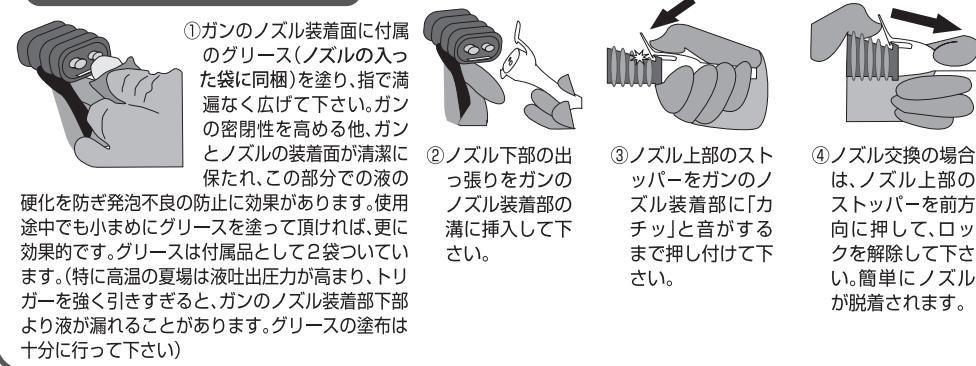
使用前の準備



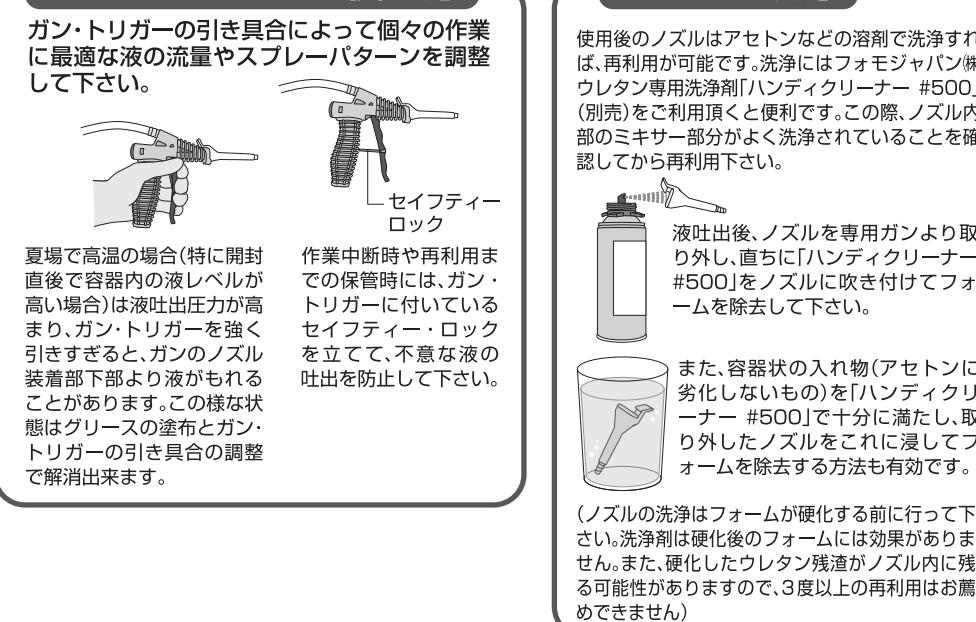
使用方法



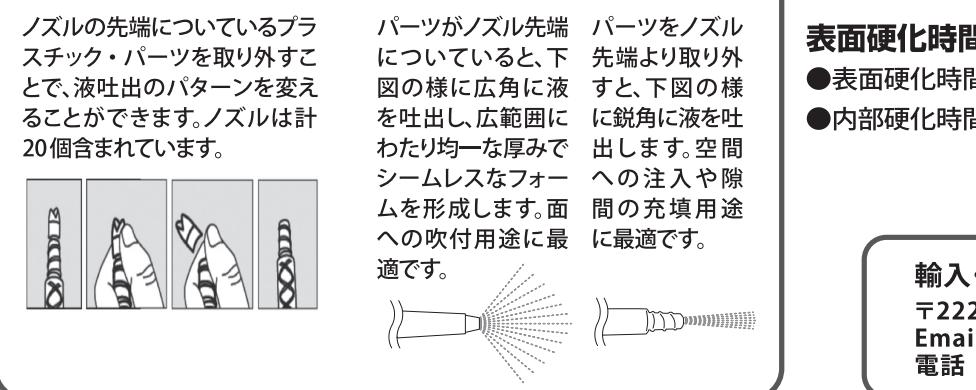
ノズルの装着方法



ガン・トリガーの使い方



ノズルと液吐出パターン



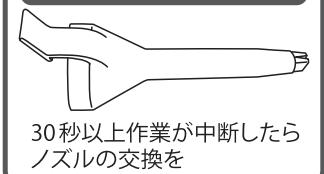
その他の注意

- 吐出後の原液は5~8倍に発泡しますので、この点を考慮して作業を行って下さい。
- 作業が中断した場合、30~60秒でノズル内の液の硬化が始まります。30秒以上の作業中断があった場合は、ノズルを新しいものに交換して下さい。ノズル内での液つまりが原因の発泡・硬化不良を防止します。
- 容器内の液が残り少なくなると、吐出した液の色が変化します。この状態になったら作業は中止し、新しい製品を使用して下さい。
- ウレタンフォームはほとんどの材料に接着しますが、ポリエチレン、テフロンなどのフッ素樹脂で加工された面、シリコン、油、グリース、剥離材、銀面加工された面などには接着しませんので、ご注意下さい。
- 硬化したウレタンフォームは紫外線にあたると劣化します。直射日光にあたる場所への施工の場合は、ウレタンフォーム内部硬化後に必要に応じてバテや塗料などで表面を処理して下さい。紫外線による劣化を防ぎます。

保管時の注意

- 10~20°Cの冷暗所で保管して下さい。
- 40°C以上となるところには置かないで下さい。破裂することがあります。
- 熱源、火のある所へは絶対に置かないで下さい。破裂があります。
- 幼児、児童の手の届かない所に保管して下さい。

頻繁にノズルの交換を

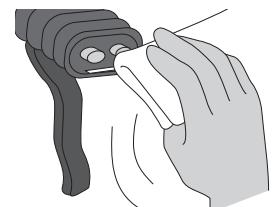


使用後の注意

- ボンベのバルブを閉めて下さい。
- 保管時の温度等については上記[保管時の注意]を参照下さい。
- ガンのノズル装着面を布などできれいにし、固化した液や塵を取り除いて下さい。きれいになったガンのノズル装着面に再度グリースを塗布して下さい。ノズル(できれば使用済のもの)をガンに装着して下さい。保管の間はトリガーのセイフティーロックを立て、不意な液の吐出を防止して下さい。
- 専用ホースはボンベから外さないで下さい。また、専用ホースをエアー、水、溶剤などで洗浄しないで下さい。
- 専用ガンは使い捨て用です。長期間の保管や継続的再利用には適しません。長期の保管を可能にするには、少なくとも7日に1回、少量を試し打ちし、ホース内を液がスムーズに流れることを確認してください。初めての使用からなるべく30日以内に全量を使い切って下さい。

保管後のガンの再利用

- トリガーのセイフティーロックを解除するまえに、ノズルを外して下さい。ガンとノズルの装着部分が清潔に保たれていることを確認して下さい。固化した液や塵などが付着している場合は、柔らかい布を使って取り除いて下さい。
- 再利用の前に、再度グリースをガンとノズルの装着面に塗布して下さい。
- 新しいノズルを装着して作業を開始して下さい。



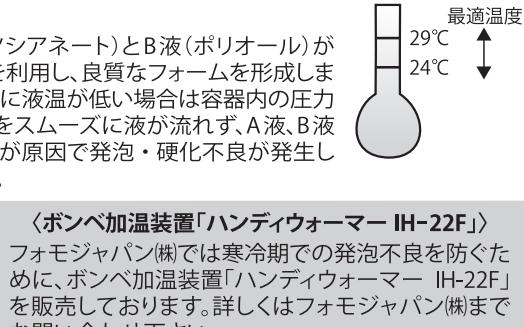
使用後の容器の廃棄処理

- 容器に穴を開けたり、焼いたりしないで下さい。
- 容器が空になったら、容器内のガスを抜いて下さい。容器にはまだ圧力がかかっています。ガスを抜く際、防護メガネ、手袋、マスク等を必ず着用して下さい。容器のバルブを使用の際の方向と逆の方向に向けて、ゆっくりとバルブを開けて下さい。この際、容器から顔をそむけ、圧力が完全に抜けるようにして下さい。
- 空の容器は有毒なガスを含んでいる場合があります。換気を充分に行い、呼吸器具を準備して下さい。
- 使用後の容器は産業廃棄物として処理して下さい。

寒冷期での使用

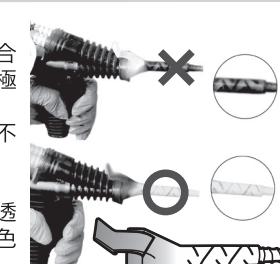
2液性発泡硬質ウレタンフォームは、A液(イソシアネート)とB液(ポリオール)が1:1の均等に混合することにより起る化学反応を利用し、良質なフォームを形成します。そのための液の最適温度は24~29°Cです。特に液温が低い場合は容器内の圧力が下がり、また液の粘度が高まるため、ホース内をスムーズに液が流れず、A液、B液が均等に混合しない原因となります。この不均等が原因で発泡・硬化不良が発生します。軸体の温度は最低でも7~10°Cは必要です。

液温を最適にするために、使用前に容器を20°C以上の室内で1~2日放置して、液が温まった段階で使用して下さい。ストーブ、バーナー、熱湯などで暖めると破裂の危険がありますので止めて下さい。



液温が低いとノズルの色が変わります

- 付属品のノズルは表面が約13°C以下になると青色に変色します。
- ウレタン吹付作業中で、ノズルのミキシング部分の表面が青色である場合は、ノズル内を通過するウレタンの原液の温度が、適温(24~29°C)より極めて低い(13°C以下)ことを示しています。
- この状態で作業を続けると、良質なウレタンフォームが形成されず発泡不良につながります。
- 作業を中断してウレタン原液を温める手段を取って下さい。
- 液温を適温まで上昇させて作業をすると、外気が13°C以下でもノズルは透明になります。(右イラストの様にノズルの上部のストッパーの部分は青色のままで、ミキシング部分の表面が透明になれば、OKです)



応急手当

- 手、指、皮膚に液が付着した場合、石鹼と水で直ちに丁寧に洗浄して下さい。皮膚への接触により軽い炎症や一時的に皮膚が黒ずることがあります。刺激が続く場合はスキンクリームを塗って下さい。症状が残る場合は医師の診断を受けて下さい。
- 目に液の飛翔が入った場合、最低でも15分間、きれいな水で目を洗ってから医師の診断を受けて下さい。
- ガスを吸い込んだ場合は、新鮮な空気のある所に移動して下さい。症状によっては医師の診断を受けて下さい。
- 液を摂取した場合、無理やり吐こうとせず、1~2杯の水かミルクを飲んでから、医師の診断を受けて下さい。

高圧ガスの名称：HFO-1234ze、圧縮窒素 使用容器：DOT-39